

令和4（2022）年度

公立大学法人長野県立大学の業務実績に関する
評価結果報告書

令和5（2023）年9月

公立大学法人長野県立大学評価委員会

令和4（2022）年度の業務実績評価について

公立大学法人長野県立大学評価委員会（以下「評価委員会」という。）は、地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）第78条の2の規定に基づき、公立大学法人長野県立大学（以下「長野県立大学」という。）の令和4（2022）年度業務実績について、中期目標・中期計画に定められた項目の進捗状況または達成状況について評価を行った。

I 評価の基本方針・評価方法

1 評価の基本的な考え方

- (1) 評価は、法人の業務運営等について多面的な観点から総合的にを行い、法人の中期計画の進捗状況を評定するものとする。
- (2) 評価は、教育研究の特性、自主性・自律性に配慮しつつ、法人の継続的な質的向上に資するものとする。
- (3) 評価の一連の過程を通じて、法人の状況を分かりやすく示し、地域社会への説明責任を果たすものとする。
- (4) 中期目標の達成を確保する上で、支障となると考えられる業務運営上の課題を明らかにし、業務の改善・充実に資する。
- (5) 評価は、法人が自主的に行う組織・業務全般の見直しや、次期の中期目標・中期計画の検討に資するものとする。

2 評価方法

評価に当たっては、「公立大学法人長野県立大学の業務実績評価に関する基本方針」（以下「基本方針」という。）及び「公立大学法人長野県立大学の各事業年度の業務実績に関する評価に係る実施要領」（以下「実施要領」という。）に基づいて実施した。

3 評価の手順（実施要領から抜粋）

評価は以下のとおり実施した。最終的な評定は、評価委員の合議により、意見をまとめ、評価を行った。

(1) 項目別評価

ア 小項目別評価

- ・評価委員会は、公立大学法人長野県立大学から提出された「令和4年度公立大学法人長野県立大学の業務の実績に関する報告書」等について、法人関係者からのヒアリング等により検証を行った。
- ・法人の自己点検評価の結果を踏まえて、進捗状況または達成状況を実施要領別表1に定める年度計画の小項目ごとに、実施要領別表2に定める評価基準により、「s、a、b、c、d」の5段階で評価を行った。
- ・なお、法人による自己点検評価の結果と評価委員会による評価の結果が異なる場合には、その理由を示すとともに、必要に応じて、大学の教育・研究等の質的向上、大学経営の改善の促進につながるよう、特筆すべき点や進捗が遅れている点等についてもコメントを付すものとした。

イ 大項目別評価

評価委員会は、小項目別評価結果を踏まえ、実施要領別表1に定める大項目ごとに、実施要領別表2に定める評価基準により、中期計画進捗状況または達成状況について、「S、A、B、C、D」の5段階で評価を行った。

(2) 全体評価

評価委員会は、全体評価に当たって、大項目別評価の結果を踏まえ、実施要領別表2に定める評価基準により、当該事業年度における法人の中期目標及び中期計画の進捗状況または達成状況の全体について総合的に評価を行った。その際、長野県立大学の活動全体について記述式で評価を行った。

実施要領別表 1 : 年度評価における評価項目

評価区分	評価の対象、内容等
小項目別評価	年度計画の第2から第6の最小項目として記載されている各事項の進捗状況または達成状況 ※年度計画の第7から第12に係る実績は、全体評価の参考情報として用いる。
大項目別評価	事業単位評価及び指標単位評価を踏まえた中期計画における5つの大項目（8区分）ごとの進捗状況または達成状況
	1 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 【教育に関する事項】（年度計画第2の1） (1)人材育成の方向
	2 (2)入学者の受入れ
	3 (3)教育の質の向上
	4 (4)学生への支援
	5 【研究に関する事項】（年度計画第2の2）
	6 【地域貢献に関する事項】（年度計画第2の3）
	7 【国際交流に関する事項】（年度計画第2の4）
	8 業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置（年度計画第3）
	9 財務内容に関する目標を達成するためとるべき措置（年度計画第4）
	10 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置（年度計画第5）
11 その他業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置（年度計画第6）	
全体評価	項目別評価を踏まえた中期計画全体の進捗状況または達成状況

実施要領別表 2 : 年度評価における評価基準

評価区分	評定	評価の基準	評価の目安
小項目別評価	s	中期計画の達成に向けて特筆すべき進行状況にある	特に優れた実績を上げている（評価委員会が特に認める場合）
	a	中期計画の達成に向けて順調に進んでいる	年度計画を達成している（100%以上）
	b	中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる	概ね年度計画を達成している（80%以上100%未満）
	c	中期計画の進捗はやや遅れている	年度計画を十分には達成できていない（80%未満）
大項目別評価	d	中期計画の達成のためには抜本的な改善が必要である	業務の大幅な改善が必要
	S	中期計画の進捗は優れて順調	特に優れた進行状況にある（評価委員会が特に認める場合）
	A	中期計画の進捗は順調	計画どおり進んでいる（すべてb以上）
	B	中期計画の進捗は概ね順調	概ね計画通り進んでいる（bからaの割合が80%以上100%未満）
全体評価	C	中期計画の進捗はやや遅れている	やや遅れている（bからaの割合が80%未満）
	D	中期計画の進捗は遅れている	業務の大幅な改善が必要（評価委員会が特に認める場合）
		中期計画の進捗は優れて順調	中期計画全体の進捗状況について、大項目別評価から総合的に勘案し、評価
		中期計画の進捗は順調	
	中期計画の進捗は概ね順調		
	中期計画の進捗はやや遅れている		
		中期計画の進捗は遅れている	

※「評価の目安」は、評価に当たり判断の目安を示したものであり、実績・成果の水準に加え、計画の難易度、外的要因、取組の経緯・過程等、総合的に勘案して評価する。

Ⅱ 全体評価

1 評価結果

中期計画の進捗は順調

○評価結果の概要

長野県立大学は、「長野県の知の礎となり、未来を切り拓くリーダーを輩出し、世界の持続的発展を可能にする成果を発信することで、人類のより良い未来を創造し、発展させる大学を目指す」の理念のもと、「リーダー輩出」「地域イノベーション」「グローバル発信」という3つの使命を掲げ、平成30(2018)年度から令和5(2023)年度の中期計画に基づき、教育・研究の質の向上や地域貢献活動に積極的に取り組んでいる。

開学5年目となる令和4年度も、引き続き新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けたものの、「新型コロナウイルス感染症対策本部会議」を開催し、キャンパスや寮における感染対策を迅速に講じたほか、社会情勢等を踏まえて学内の活動指針レベルやガイドライン、マスクの着用基本方針等の見直しを実施するなど、学内の感染防止対策を徹底した上で、教育の質の維持・向上や学生へのきめ細かな支援に、教職員が一丸となって取り組んだ。

また、長野県立大学大学院を令和4年度の4月に開設し、ソーシャル・イノベーション研究科、健康栄養科学研究科の2研究科が設置され、両研究科ともに、社会人学生が履修しやすい環境を整えるため、具体的には、平日夜間の講義はすべてリアルタイムのオンライン授業とし、土曜日に対面授業を行っている。

このように、コロナ禍で活動が制限される中でも特徴的な大学独自の教育が行われるとともに、ソーシャル・イノベーション創出センターによる地域・高校との連携、SDGsへの取り組み、地域課題の解決に関する取り組みなども行い、中期計画の達成に向けて順調に進んでいると評価する。

英語教育については、2年次終了時まで全学生がTOEIC600点以上、平均点700点以上を目指す高い目標を掲げ、精力的に取り組んでいる。令和4年度はTOEIC600点以上の割合、平均点ともに過去最高になるなど、大学入学後の英語集中プログラムの実施により、学生の英語力の全体的な底上げはなされているものの、中期計画の目標値の達成に向けて英語力向上の取組の見直しを含めた抜本的な対策が必要である。

また、科学研究費の毎年度新規申請率80%以上を目指すという目標値が達成されていないなどの課題も見受けられる。

年度計画を達成できなかった項目については、要因を検証の上、必要な対策を早急に検討するなど、一層の取組が望まれる。

理事長・学長をはじめとして、教職員全員が今回の評価結果における課題に対して共通認識を持ち、中期目標・中期計画の達成に向けて引き続き取り組まれることにより、今後の法人運営の改善や大学の更なる発展につながることを期待する。

Ⅲ 項目別評価

(i) 大項目別評価結果 (一覧)

評価委員会における小項目評価に基づく大項目評価の状況は以下のとおりである。本年度は小項目数が96項目となった。

大項目評価*				小項目評価					
				s	a	b	c	d	合計
1	1 教 育	(1) 人材育成の方向	B	0	16	3	1	0	20
2		(2) 入学者の受入れ	A	0	8	0	0	0	8
3		(3) 教育の質の向上	A	0	8	0	0	0	8
4		(4) 学生への支援	A	3	12	0	0	0	15
5	2	研究	B	0	5	0	1	0	6
6	3	地域貢献	A	1	7	0	0	0	8
7	4	国際交流	A	0	5	0	0	0	5
8	5	業務運営	A	0	8	0	0	0	8
9	6	財務	A	0	2	0	0	0	2
10	7	自己点検・評価	A	0	3	0	0	0	3
11	8	その他業務運営	A	0	12	1	0	0	13
項目数合計			11	4	86	4	2	0	96
割合 (%)				4.2	89.5	4.2	2.1	0	100

【大項目評価の目安】(実施要領：別表2より)

- S:特に優れた進行状況にある(評価委員会が特に認める場合)
- A:計画どおり進んでいる(すべてb以上)
- B:概ね計画どおり進んでいる(bからaの割合が80%以上100%未満)
- C:やや遅れている(bからaの割合が80%未満)
- D:業務の大幅な改善が必要(評価委員会が特に認める場合)

96の小項目中、s(特筆すべき進行状況にある)が4項目、a(順

調に進んでいる)が84項目、b(概ね順調に進んでいる)が6項目、c(やや遅れている)が2項目となった。

(ii) 大項目別評価

1	教育に関する事項 (1)人材育成の方向
B	中期計画の進捗は概ね順調

20個の小項目中、16項目がa(順調に進んでいる)、3項目がb(概ね順調に進んでいる)、1項目がc(やや遅れている)と認められ、大項目評価はB(中期計画の進捗は概ね順調)となった。

1の取組項目(小項目の数)		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	19	0	1	0	20
	割合(%)	0	95	0	5	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	16	3	1	0	20
	割合(%)	0	80	15	5	0	100

▽評価できる点(sかa評価のうち特記できること)

- ・学長との個別面談の機会が新入生全員にあるのは多くの大学では実施できないユニークな取組であるので、今後とも継続していただきたい。
- ・各学生の英語力を勘案して、年々、英語の成績が上昇傾向であるのは評価できる。

▼課題となる点や今後の展開に期待する点

- ・健康栄養科学研究科においては長野県の健康長寿を牽引するよう

な研究について、積極的に展開していただきたい。

- ・少人数クラスの取組においては、計画通りの人数での実施ができるよう努めていただきたい。
- ・渡航有りの海外プログラムへの参加が、将来の役に立つと考えられるので、全員の学生が渡航できるような対応をしていただきたい。
- ・TOEIC オンライン講座の受講者数が少ないままであり、法人の意義を学生に丁寧に説明し、受講生を増やす努力が必要と考えられる。
- ・2年次修了時の TOEIC 点数の目標（全学生 600 点以上、平均点 700 点以上）が、5年連続で目標値を達成しておらず、中期計画の目標達成に向けて、学生への意欲喚起を促す必要があると考えられる。

2	教育に関する事項 (2) 入学者の受入れ
A	中期計画の進捗は順調

8 個の小項目すべてが a（順調に進んでいる）と認められ、大項目評価は A（中期計画の進捗は順調）となった。

2の取組項目（小項目の数）		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	8	0	0	0	8
	割合（%）	0	100	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	8	0	0	0	8
	割合（%）	0	100	0	0	0	100

▼課題となる点や今後の展開に期待する点

- ・広報活動にあたっては、SNS を利用するなど、積極的に学生確保のために取り組んでいただきたい。
- ・大学院生の確保の手段として、県内の地方公共団体の若手職員へのアプローチ回数を増やしてはいかがか。
- ・公立大学であることから、個別説明会の開催など引き続き積極的な広報・情報提供に努めていただきたい。

3	教育に関する事項 (3) 教育の質の向上
A	中期計画の進捗は順調

8 個の小項目中すべてが a（順調に進んでいる）と認められ、大項目評価は A（中期計画の進捗は順調）となった。

3の取組項目（小項目の数）		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	8	0	0	0	8
	割合（%）	0	100	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	8	0	0	0	8
	割合（%）	0	100	0	0	0	100

▽評価できる点

- ・発信力ゼミでのルーブリックの利用は大変素晴らしいので、積極的に活用することを期待する。

▼課題となる点や今後の展開に期待する点

- ・FD や SD は知恵や情報を共有する機会であり、教員や職員の業務の効果や効率を高めるために役立てられることと思うので、研修の大切さを教職員に浸透するよう呼び掛けてほしい。

4	教育に関する事項 (4) 学生への支援
A	中期計画の進捗は順調

15 個の小項目中、3 項目が s (特筆すべき進行状況にある)、12 項目が a (順調に進んでいる) と認められ、大項目評価は A (中期計画の進捗は順調) となった。

4 の取組項目 (小項目の数)		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	3	12	0	0	0	15
	割合 (%)	20	80	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	3	12	0	0	0	15
	割合 (%)	20	80	0	0	0	100

▽評価できる点

- ・地域を巻き込んだプロジェクトを実施するのは困難で、労力のいることであり、学科ごとの地域連携が出てきていることを評価する。
- ・14 名の内定者による就職アドバイザー制度の実施は学生にとって心強いシステムであり、就職希望者の就職率 100% 達成は立派な成果である。
- ・臨地実習を 500 時間確保し、管理栄養士国家試験の合格率 10

0% を達成したことを評価する。

▼課題となる点や今後の展開に期待する点

- ・キャリア教育だけでなく、開学当初のイノベーティブな視野を広げるような内容・プログラムを重視していただきたい。
- ・インターンシップでは企業の採用活動の時期も含めて流動的であるので、今後ともきめ細かな対応を期待する。

5	研究に関する事項
B	中期計画の進捗は概ね順調

6 個の小項目中、5 項目が a (順調に進んでいる)、1 項目が c (やや遅れている) と認められ、大項目評価は B (中期計画の進捗は概ね順調) となった。

5 の取組項目 (小項目の数)		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	5	0	1	0	6
	割合 (%)	0	83.3	0	16.7	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	5	0	1	0	6
	割合 (%)	0	83.3	0	16.7	0	100

▼課題となる点や今後の展開に期待する点

- ・教員の研究成果を県民に広く理解していただけるよう、紀要の掲載数を増やすよう検討していただきたい。
- ・科学研究費補助金の継続者を除く新規申請率は、昨年より上昇しているが、年度計画の目標が未達成であり、教員が研究にも

力を注げる環境がつけられることを期待する。

6	地域貢献に関する事項
A	中期計画の進捗は順調

8個の小項目中、1項目がs（特筆すべき進行状況にある）、7項目がa（順調に進んでいる）と認められ、大項目評価はA（中期計画の進捗は順調）となった。

6の取組項目（小項目の数）		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	1	7	0	0	0	8
	割合（%）	12.5	87.5	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	1	7	0	0	0	8
	割合（%）	12.5	87.5	0	0	0	100

▽評価できる点

- ・ソーシャル・イノベーション創出センターを窓口、県内教育機関と多くの事業を展開されていることを高く評価する。

▼課題となる点や今後の展開に期待する点

- ・事業者支援に向けてより具体的な取組を行うためには、関係機関との連携が大事になってくると思うので、様々な企業等を巻き込んだ活動への展開と学内参加者の広がりを目指す。
- ・象山未来塾の当初の目的である、イノベーションの考え方に触れるというプログラムを重視していただきたい。

7	国際交流に関する事項
A	中期計画の進捗は順調

5個の小項目全てがa（順調に進んでいる）と認められ、大項目評価はA（中期計画の進捗は順調）となった。

7の取組項目（小項目の数）		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	5	0	0	0	5
	割合（%）	0	100	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	5	0	0	0	5
	割合（%）	0	100	0	0	0	100

▼課題となる点や今後の展開に期待する点

- ・コロナ禍のイレギュラーな出来事や学生の経済的な事情も理解できるが、開学以来の県立大学の特徴であった、全員参加の海外プログラムを確実に実行できるよう取り組んでいただきたい。

8	業務運営に関する事項
A	中期計画の進捗は順調

8個の項目中すべてがa（順調に進んでいる）と認められ、大項目評価はA（中期計画の進捗は順調）となった。

8の取組項目（小項目の数）		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	8	0	0	0	8
	割合（%）	0	100	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	8	0	0	0	8
	割合（%）	0	100	0	0	0	100

▼課題となる点や今後の展開に期待する点

- ・全職員がSD研修に1回以上参加するという年度目標は達成したが、各職員がさらに多くの研修に参加し、一層の資質向上につながるよう努められたい。

9	財務内容に関する事項
A	中期計画の進捗は順調

2個の小項目すべてがa（順調に進んでいる）と認められ、大項目評価はA（中期計画の進捗は順調）となった。

9の取組項目（小項目の数）		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	2	0	0	0	2
	割合（%）	0	100	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	2	0	0	0	2
	割合（%）	0	100	0	0	0	100

10	自己点検・評価及び情報の提供に関する事項
A	中期計画の進捗は順調

3個の小項目すべてがa（順調に進んでいる）と認められ、大項目評価はA（中期計画の進捗は順調）となった。

10の取組項目（小項目の数）		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	3	0	0	0	3
	割合（%）	0	100	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	3	0	0	0	3
	割合（%）	0	100	0	0	0	100

▼課題となる点や今後の展開に期待する点

- ・入試情報の広報等は充実しているが、学科によって発信内容に差があるので、広報の充実に向けて取り組んでいただきたい。

11	その他業務運営に関する事項
A	中期計画の進捗は順調

13個の小項目中、12項目がa（順調に進んでいる）、1項目がb（おおむね順調に進んでいる）と認められ、大項目評価はA（中期計画の進捗は順調）となった。

11 の取組項目（小項目の数）		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	13	0	0	0	13
	割合（%）	0	100	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	12	1	0	0	13
	割合（%）	0	92.3	7.7	0	0	100

▽評価できる点

- ・Transform 合同会社の稲墻聡一郎氏をセルフマネジメント研修の講師として行ったことを評価する。

▼課題となる点や今後の展開に期待する点

- ・個人情報の流出等は大学への信頼を大きく失いかねない問題なので、参加者だけでなく、教職員全員が情報セキュリティについて理解を進めるよう努めていただきたい。
- ・「研究活動上の不正防止等」について、「注意喚起」を機会に応じて数多く実施していただきたい。

参考意見

評価結果報告書【資料編】のコメントには記載していないものの、法人運営全般の改善や教育・研究の質の向上を目的として、法人への期待や要望、今後参考となる事項について「参考意見書」としてまとめた。

○評価の経緯

令和5年6月30日	「令和4年度公立大学法人長野県立大学の業務の実績に関する報告書」の公表・提出 (法人)
7月19日	公立大学法人長野県立大学評価委員会 法人ヒアリング ・業務実績報告書についての評価委員からの 質問に対する法人からの説明、質疑応答
7月27日	第1回公立大学法人長野県立大学評価委員会 ・業務実績に関する小項目評価の検討
8月8日	第2回公立大学法人長野県立大学評価委員会 ・業務実績に関する小項目評価の検討
9月5日	第3回公立大学法人長野県立大学評価委員会 ・大項目・全体評価の検討 ・評価結果報告書の検討
9月15日	評価委員会から知事へ「令和4年度公立大学 法人長野県立大学の業務実績に関する評価結 果報告」の提出

○公立大学法人長野県立大学評価委員会委員

(五十音順、敬称略)

職	氏名	役職名
委員長	山沢 清人	信州大学 名誉教授
委員	伊藤 かおる	(株) コミュニケーションズ・アイ 代表取締役社長
委員	久保田 明雄	久保田法律事務所 弁護士
委員	清水 さゆり	高崎経済大学 経済学部国際学科 教授
委員	山浦 愛幸	(一社) 長野県経営者協会 名誉会長 (株) 八十二銀行 顧問